

## 日本株厳選ファンド

■円コース ■ブラジルリアルコース ■豪ドルコース ■アジア3通貨コース  
 ■米ドルコース ■メキシコペソコース ■トルコリラコース  
 追加型投信/国内/株式 ※課税上は株式投資信託として取り扱われます。

### －当ファンドの運用状況について－

日頃より『日本株厳選ファンド』をご愛顧賜り誠にありがとうございます。

当レポートでは、『日本株厳選ファンド』における2018年初来の日本株の運用状況についてご報告いたします。

#### ＜日本株の運用状況＞

年初からの日本株は、2月の米国の金利上昇に端を発した世界同時株安や米中貿易摩擦の影響から大きく下落しましたが、その後は米国の堅調な経済環境や日本企業の好業績を背景に持ち直し、堅調に推移しました。9月には米国株式市場でS&P500指数が史上最高値を更新したことも追い風となり、日本株も大幅に上昇しました。しかし、10月以降は世界的に景気減速懸念が強まるなど、リスクオフの流れから米国株が大幅に下落し、日本株も大きく売られる展開となりました。

このような環境下、当ファンドの日本株のパフォーマンスは振るいませんでした。2018年1月4日から12月12日までの騰落率は、TOPIX（配当込み）の▲12.0%に比べ、当ファンドの円コースは分配金再投資基準価額ベースで▲18.8%となりました。市場の下落傾向に加え、銘柄選択がパフォーマンスの足を引っ張りました。年初からみると、化学、小売業、輸送用機器、陸運業、機械などの銘柄選択がマイナスに作用しました。

次ページに続きがあります。

#### ＜円コースの分配金再投資基準価額とTOPIX（配当込み）の推移＞



※各データは2017年1月4日を10,000として指数化、TOPIXは当ファンドのベンチマークではありません。  
 ※各種データより大和住銀投信投資顧問作成

※基準価額は信託報酬控除後のものです。※上記データは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

1/14

■当資料は、ファンドの運用状況や関連する情報等をお知らせするために大和住銀投信投資顧問が作成した資料です。■当資料内の運用実績等に関する数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金、保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行など登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

資産運用のベストパートナー、だいわすみぎん  
**大和住銀投信投資顧問**  
 Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号  
 加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

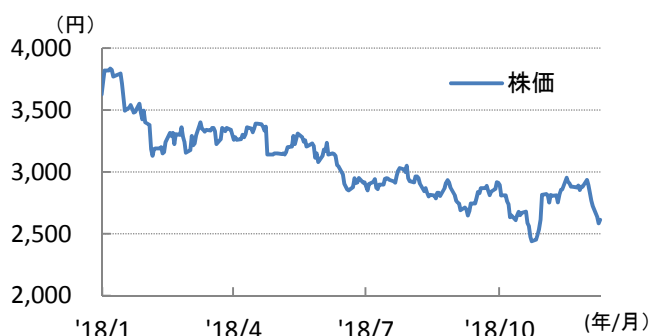
- 円コース ■ブラジルリアルコース ■豪ドルコース ■アジア3通貨コース
- 米ドルコース ■メキシコペソコース ■トルコリラコース

前ページからの続きです。

2018年の年初から足許までの期間、各業種では主に以下の銘柄がマイナスに作用しました。

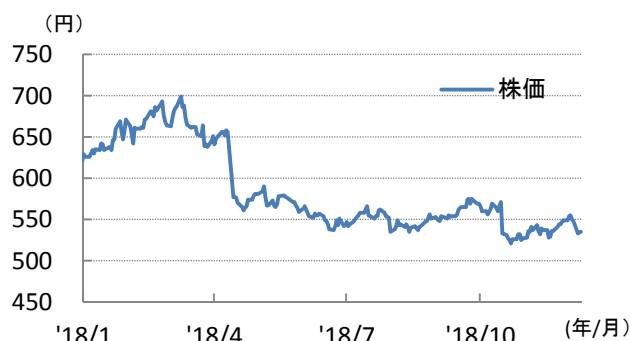
### <化学: 4183 三井化学>

10月に全売却



### <小売業: 9831 ヤマダ電機>

3月に新規組入れ、7月に全売却



### <輸送用機器: 7272 ヤマハ発動機>

7月に全売却、10月に再度組入れ



### <陸運業: 9024 西武ホールディングス>

3月に全売却



### <機械: 6460 セガサミーホールディングス>

8月に新規組入れ、10月に全売却



※グラフの期間 2018年1月4日～2018年12月12日  
(出所) Bloomberg

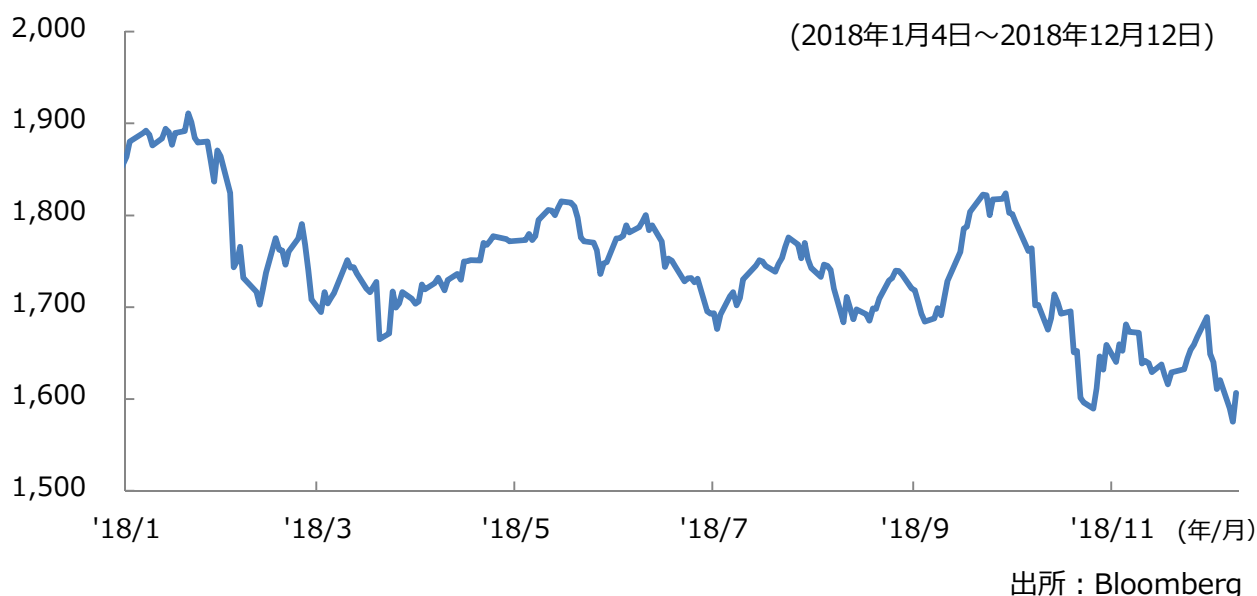
11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

## <日本株市場の見通しと運用方針>

米中関係は今後も緊張状態が続き、米景気の先行き不透明感やリスク資産からの資金流出懸念も残存すると見ております。一方、中国の景気下支え観測や、PER(株価収益率)や予想配当利回りを見た日本株の割安さなどを踏まえると、ここからの下値余地は小さいと思われます。こうした点を踏まえ、株価は上下動を繰り返しながらも、緩やかに下値を切上げる展開を見込んでいます。

今後の運用方針としては、引き続き、わが国の株式で企業の資産・利益等と比較して株価が割安と判断される企業の中から、事業の将来性、業績動向、経営力、財務内容等を勘案して今後の株価上昇が期待できる銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築する方針です。先行き不透明感からリスクが過度に織り込まれた割安株を中心に物色し、パフォーマンスの改善に努めて参ります。

## <日本株：TOPIX 年初来の推移>



※当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくはファンドの運用方針等について、運用担当者(ファンドマネジャー他)の見方あるいは考え方等を記載したもので当該運用方針は変更される場合があり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、将来の運用成果等を約束するものでもありません。



## <各コース投資対象通貨の見通し>

### <ブラジルリアル> ボルソナロ新政権の政策運営に注目

ブラジル中央銀行は2016年以降、段階的に利下げを行い、政策金利を14.25%から2018年3月に過去最低の6.50%とした後、足許は政策金利を据え置いています。これまでの利下げの効果から経済は回復傾向にあり、経常赤字も改善傾向を辿っています。一方で、政治リスクはやや高まり、10月に実施された大統領選は決戦投票にもつれこんだ結果、汚職撲滅などを訴えこれまでの左派勢力による長期政権からの脱却をはかる極右のボルソナロ氏が当選しました。新政権への期待は高いものの、ボルソナロ氏の政治基盤は弱いため、今後の政策運営が注目されています。リアルにとって国内経済の回復傾向はプラス要因です。今後、ブラジルの政治リスクが払拭され、新政権が市場の信認を得られるような政策運営を掲げられれば、相対的に金利水準の高いブラジルリアルは上昇傾向を辿ることが期待されます。但し、米長期金利の上昇、米中通商問題、中国経済の減速懸念といった新興国通貨を取り巻く外部環境の好転が前提となり、これらの動向についても注視する必要があります。

### <豪ドル> 豪ドル反転のカギは豪州準備銀行の利上げタイミング

豪州準備銀行は長引く低インフレから、過去最低水準の1.50%に政策金利を据え置いています。豪州経済は雇用が改善する一方で、インフレが抑えられた状態が続いており、当面は政策金利が据え置かれることが予想され、豪ドルの下落要因となっています。一方で、低金利の支えもあり、豪州は安定的な経済成長と雇用の拡大が見込まれています。今後、本格的なインフレ率の上昇が見られ始めれば、豪州準備銀行も利上げに転じると予想され、豪ドルは緩やかな上昇基調に転じると考えられます。

### <アジア3通貨> 人民元は抑制された元安、インドルピー・インドネシアルピアは上値重い

中国では対米貿易摩擦の影響で国内景気の減速が懸念されています。米中間の貿易摩擦問題は世界経済に悪影響を及ぼすとみられ、市場ではその先行きが注目されています。人民元は国内景気の減速懸念と貿易摩擦問題を受け下落基調となっていますが、中国政府は更なる元安を望まない姿勢を示し元安抑制策を打ち出しており、人民元が現在の水準から一段安となる可能性は低いと考えます。

インドルピー・インドネシアルピアは、米国の利上げを背景とした新興国からの資金流出懸念や、8月のトルコリラ暴落の影響で新興国通貨が総じて売られたことなどから下落基調を辿りました。インドでは一部金融機関の資金調達難が嫌気されたことも一因となり、対米ドルでインドルピーは過去最安値圏、インドネシアルピアは98年以来の安値水準で推移しました。但し11月に入り、米国株式市場がハイテク株主導で下落し米ドルが売られたため、インドルピーやインドネシアルピアなど一部の新興国通貨は対米ドルで上昇しました。2019年はインドでは総選挙、インドネシアでは大統領選挙が控えており、政治リスクや財政支出拡大などが懸念されることから、インドルピー・インドネシアルピアは当面、上値の重い展開を予想します。

※当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくはファンドの運用方針等について、運用担当者(ファンドマネジャー他)の見方あるいは考え方を記載したもので当運用方針は変更される場合があり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、将来の運用成果等を約束するものではありません。

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

## <各コース投資対象通貨の見通し>

### <米ドル> 米利上げ継続で、米ドル高の流れが続く

米国金融市場は2018年に入り、長期金利上昇やトランプ政権による貿易摩擦問題などを背景に、変動性の高い市場環境となりました。経済指標や企業決算内容次第で、今後も大きな値動きとなることが考えられます。一方で、FRB(米連邦準備制度理事会)が10月に発表した地区連銀経済報告では、労働力不足や貿易摩擦の懸念はあるものの、景気は緩やかに拡大しているとしています。米国資産については、今後も安定的な経済成長と正常な方向へ向かう金融政策等から、米ドル、株価、長期金利のいずれも緩やかな上昇を予想します。

### <メキシコペソ> 新政権の政策リスクに注意

10月以降、メキシコペソは大幅に下落しました。ロペス・オブラドール氏が10月に新空港の建設中止を発表したことや、11月に銀行手数料の引き下げ案が提出されたことなどが背景です。懸念材料だったNAFTA再交渉は、11月末に新協定USMCAが署名され、メキシコペソの支援材料となりました。

12月に発足した新政権は、社会保障やインフラ投資などの積極財政を打ち出しており、財源や産業界との調整などの問題が山積していることなどから、新政権の政策リスクには留意が必要です。

### <トルコリラ> エルドアン大統領に絡む政治リスクと経常収支赤字がネック

7月に実権型大統領制が始動したトルコでは、エルドアン大統領による独裁的な政治や、中央銀行への介入が懸念されています。加えて8月には、米国人牧師拘束問題から米国との関係が悪化、米国がトルコに経済制裁を科したことなどからトルコリラが大幅に下落（年初から対円で45%超下落）し、他の新興国通貨もその影響を受けて下落したことからトルコショックと呼ばれました。ロシア・イランとの関係強化が顕著に見られたことも悪材料となりました。

9月、トルコ中央銀行は1週間物レポ金利を6.25%引き上げ24.0%とする金融政策を実施し、中銀の中立性・独立性を維持する姿勢が市場で評価され、トルコリラは反発に転じました。足許では中銀に対する懸念は後退し、米国人牧師が解放され米国との関係も一旦落ち着いたことから、トルコリラは緩やかな上昇基調を辿っています。

但し、政治リスクや経常収支の赤字拡大、高インフレ等の問題は継続しているため留意する必要があります。

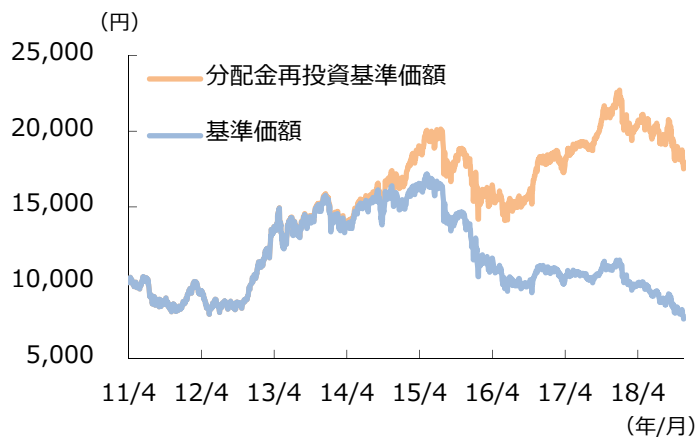
※当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくはファンドの運用方針等について、運用担当者(ファンドマネジャー他)の見方あるいは考え方を記載したもので当該運用方針は変更される場合があり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、将来の運用成果等を約束するものでもありません。

- 円コース
- ブラジルリアルコース
- 豪ドルコース
- アジア3通貨コース
- 米ドルコース
- メキシコペソコース
- トルコリラコース

### <各コースの基準価額・純資産総額の推移>

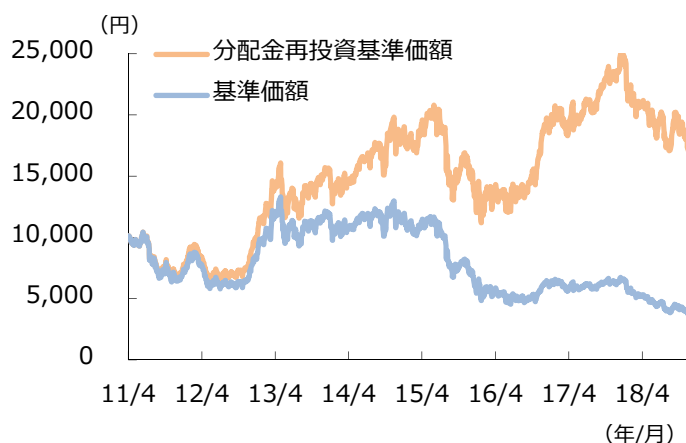
(2011/4/26~2018/12/12)

#### <円コース>



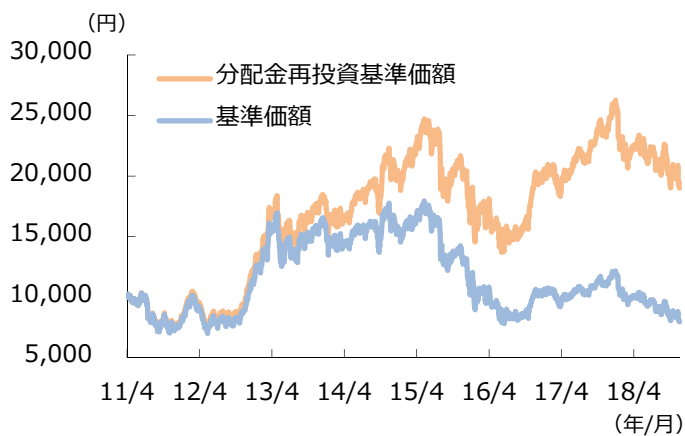
基準価額 7,599円 純資産総額 743億円

#### <ブラジルリアルコース>



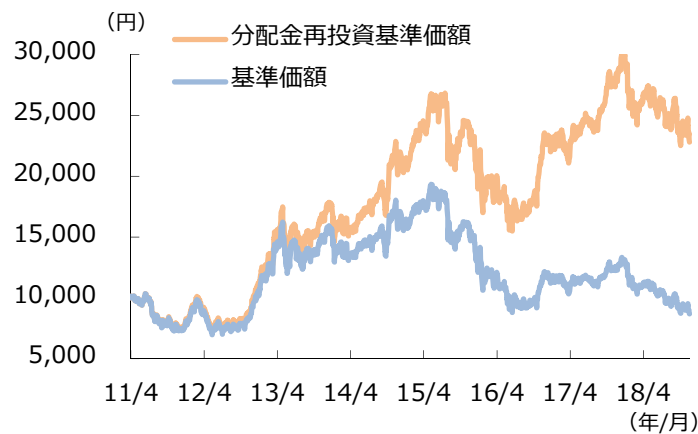
基準価額 3,714円 純資産総額 397億円

#### <豪ドルコース>



基準価額 7,966円 純資産総額 49億円

#### <アジア3通貨コース>



基準価額 8,705円 純資産総額 15億円

※基準価額は信託報酬控除後のものです。※分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の基準価額に対して、税引前分配金を決算日に再投資したものです。※過去の実績は、将来の運用結果を約束するものではありません。※基準価額と純資産総額は2018年12月12日時点

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

6/14

■当資料は、ファンドの運用状況や関連する情報等をお知らせするために大和住銀投信投資顧問が作成した資料です。■当資料内の運用実績等に関する数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金、保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行など登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

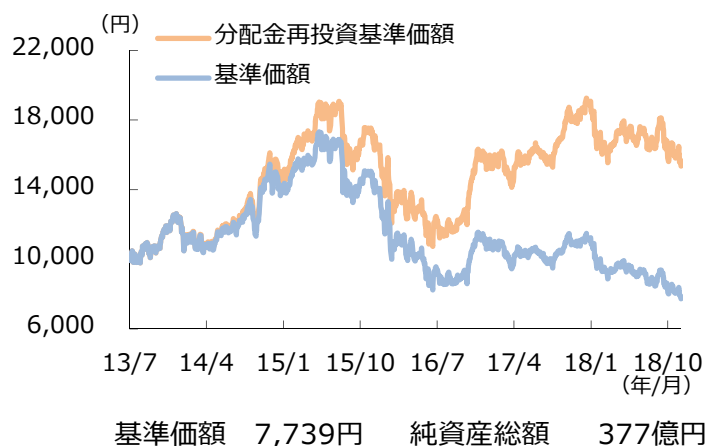


- 円コース
- ブラジルリアルコース
- 豪ドルコース
- アジア3通貨コース
- 米ドルコース
- メキシコペソコース
- トルコリラコース

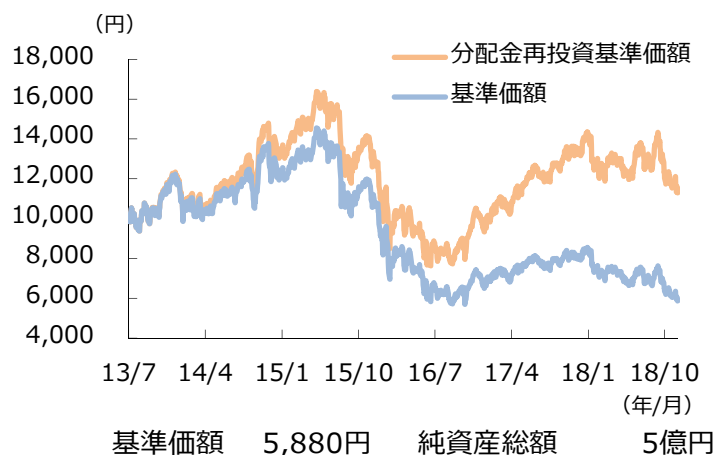
### <各コースの基準価額・純資産総額の推移>

(2013/7/26~2018/12/12)

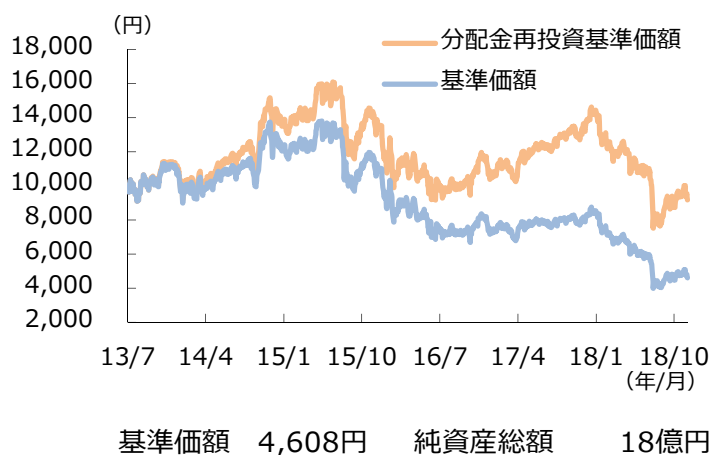
#### <米ドルコース>



#### <メキシコペソコース>



#### <トルコリラコース>



※基準価額は信託報酬控除後のものです。※分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の基準価額に対して、税引前分配金を決算日に再投資したものです。※過去の実績は、将来の運用結果を約束するものではありません。※基準価額と純資産総額は2018年12月12日時点

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

7/14

■当資料は、ファンドの運用状況や関連する情報等をお知らせするために大和住銀投信投資顧問が作成した資料です。■当資料内の運用実績等に関する数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金、保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行など登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

## 日本株厳選ファンド

- 円コース
- ブラジルリアルコース
- 豪ドルコース
- アジア3通貨コース
- 米ドルコース
- メキシコペソコース
- トルコリラコース

下記は投資信託における「収益分配金に関する留意事項」を説明するものであり、当ファンドの分配金額や基準価額を示すものではありません。

### 収益分配金に関する留意事項

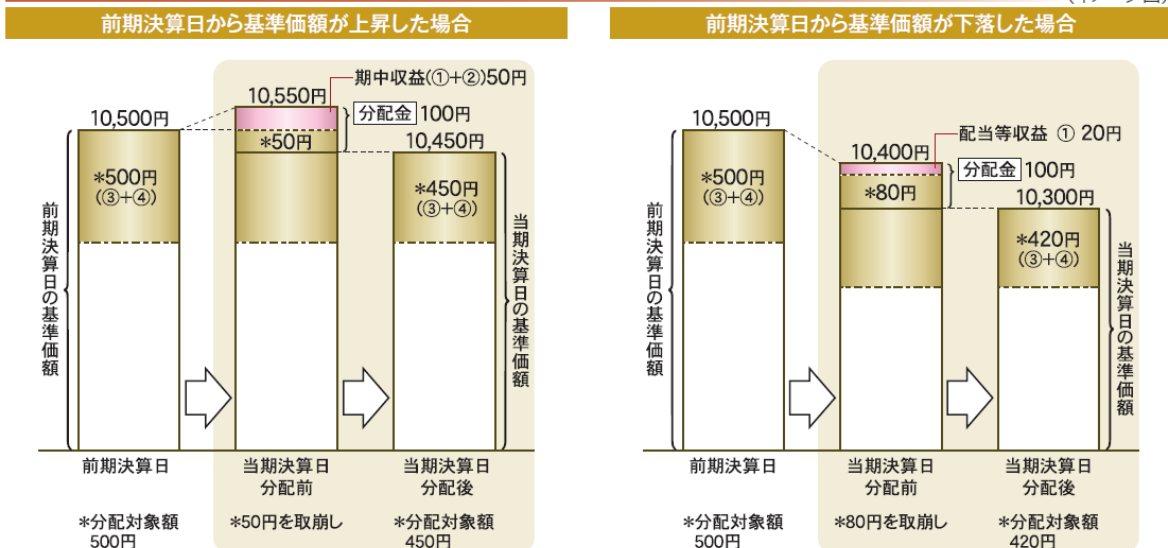
分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

#### 分配金が計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

(イメージ図)

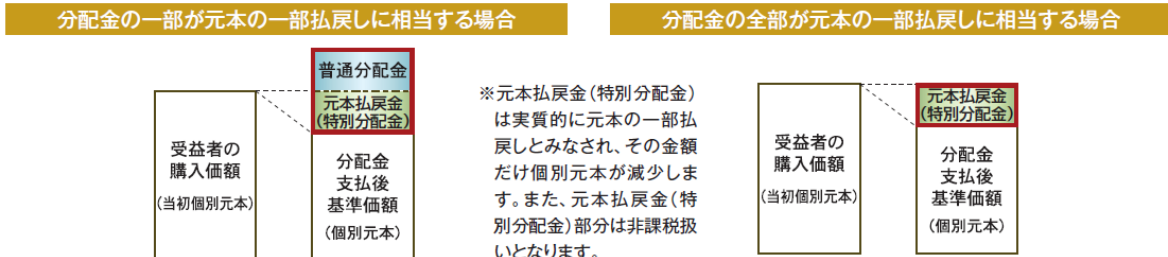


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

(イメージ図)



普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

■当資料は、ファンドの運用状況や関連する情報等をお知らせするために大和住銀投信投資顧問が作成した資料です。■当資料内の運用実績等に関する数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行など登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。



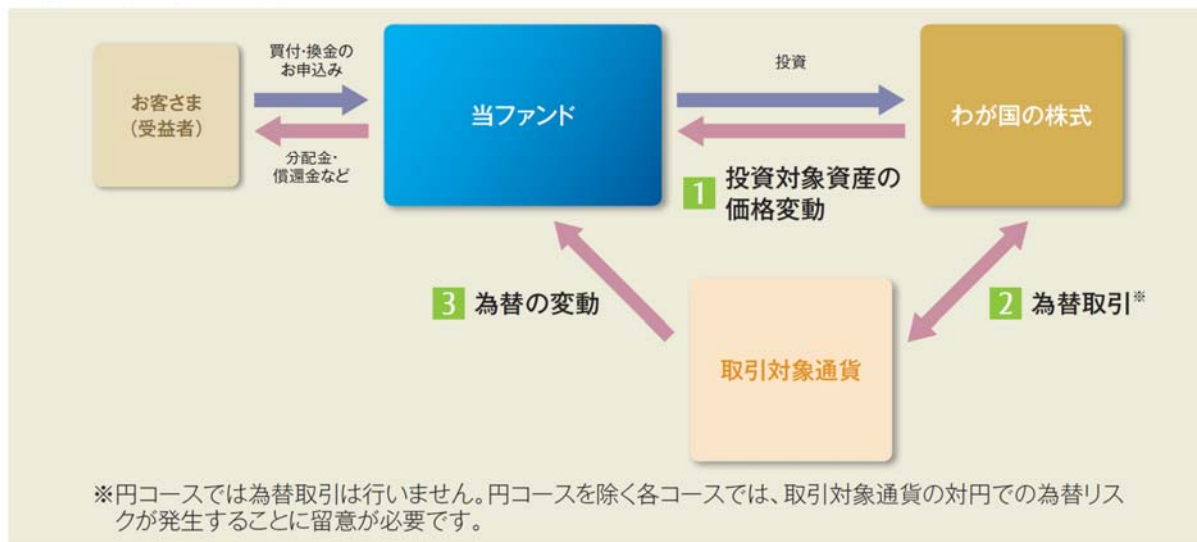
## 日本株厳選ファンド

- 円コース
- ブラジルリアルコース
- 豪ドルコース
- アジア3通貨コース
- 米ドルコース
- メキシコペソコース
- トルコリラコース

### 通貨選択型ファンドの収益のイメージ

当ファンドは主にわが国の株式への投資に加えて、為替取引を活用して運用を行うよう設計された投資信託です。

#### ●当ファンドのイメージ図



当ファンドの収益の源泉は、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益の源泉に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

収益の源泉	収益を得られるケース	損失やコストが発生するケース
<p style="text-align: center;">II</p> <p style="text-align: center;">1 わが国の株式の 配当収入、値上がり／ 値下がり</p>	<p style="text-align: center;">株価上昇</p> <p style="text-align: center;">企業利益の増加</p> <p style="text-align: center;">財務状況の改善</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p style="text-align: center;">株価下落</p> <p style="text-align: center;">企業利益の減少</p> <p style="text-align: center;">財務状況の悪化</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<p style="text-align: center;">+</p> <p style="text-align: center;">2 為替取引による プレミアム／コスト<sup>(注)</sup></p>	<p style="text-align: center;">プレミアム(金利差相当分の収益)の発生</p> <p style="text-align: center;">取引対象通貨の短期金利 &gt; 円の短期金利</p>	<p style="text-align: center;">コスト(金利差相当分の費用)の発生</p> <p style="text-align: center;">取引対象通貨の短期金利 &lt; 円の短期金利</p>
<p style="text-align: center;">+</p> <p style="text-align: center;">3 為替差益／差損<sup>(注)</sup></p>	<p style="text-align: center;">為替差益の発生</p> <p style="text-align: center;">取引対象通貨に対して円安</p>	<p style="text-align: center;">為替差損の発生</p> <p style="text-align: center;">取引対象通貨に対して円高</p>

(注)円コースでは為替取引を行わないため、円コースにおける収益の源泉は「わが国の株式の配当収入、値上がり／値下がり」となります。  
※過去の事実から見た一般的な傾向を表したものであり、上図のとおりにならない場合があります。

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。

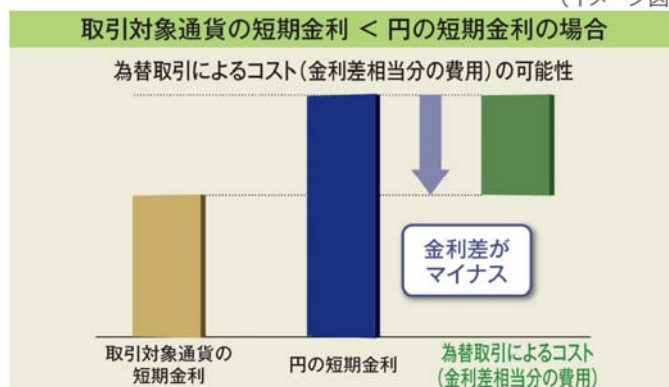
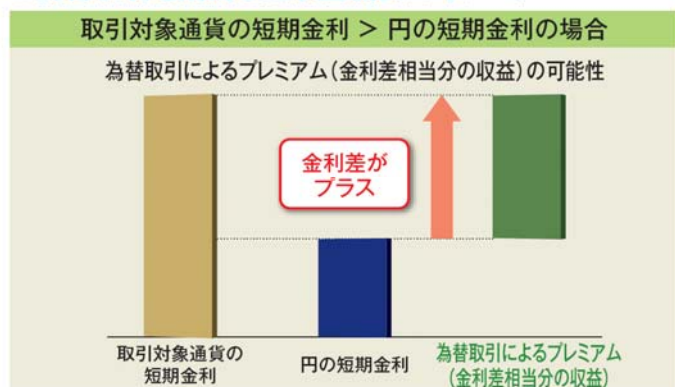
- 円コース
- ブラジルリアルコース
- 豪ドルコース
- アジア3通貨コース
- 米ドルコース
- メキシコペソコース
- トルコリラコース

### 為替取引によるプレミアム／コストについて

一般的に、円を売って円より高い金利の通貨を買う為替取引を行った場合、2通貨間の金利差を為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)として実質的に受け取ることが期待できます。反対に、円を売って円より低い金利の通貨を買う為替取引を行った場合は、為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)が生じます。また、取引対象通貨の為替変動リスク等がともないます。

#### ●為替取引を活用した収益機会のイメージ

(イメージ図)



主要投資対象の外国投資信託証券では、為替予約取引やそれに類似する取引であるNDF(直物為替先渡取引)等により為替取引が行われます。これらの取引において取引価格に反映される為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)は、金利水準だけでなく当該通貨に対する市場参加者の期待や需給等の影響を受けるため、金利差から理論上期待される水準と大きく異なる場合があります。

※NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)とは、国外に資本が流出することを規制している等の状況下にある国の通貨の為替取引を行う場合に利用する為替先渡取引の一種で、当該通貨を用いた受渡しを行わず、主要通貨による差金決済のみとする条件で行う取引をいいます。



- 円コース ■ブラジルリアルコース ■豪ドルコース ■アジア3通貨コース
- 米ドルコース ■メキシコペソコース ■トルコリラコース

## <ファンドの目的>

### 【円コース】

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。

### 【ブラジルリアルコース、豪ドルコース、アジア3通貨コース、米ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース】

わが国の株式を実質的な主要投資対象とするとともに、為替取引を行うことで信託財産の成長を目指して運用を行います。

## <ファンドの特色>

1. 主としてわが国の株式の中から、割安と判断される魅力的な銘柄に厳選して投資することで、信託財産の成長を目指します。
2. 円コースおよび為替取引を活用する6つの通貨コース（ブラジルリアルコース、豪ドルコース、アジア3通貨コース、米ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース）による7本のファンドから構成されています。
  - ・各コース間でスイッチングが可能です。
  - ※販売会社によっては、スイッチングのお取扱いがない場合があります。
  - ※スイッチングのお取扱いについては、各販売会社までお問い合わせください。
3. 毎月の決算時に収益の分配を目指します。
  - ・決算日は毎月10日（休業日の場合は翌営業日）とします。
  - ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
  - ・収益分配金は、基準価額水準、市場動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額な場合等には、分配を行わないことがあります。
  - ・将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## <投資リスク（詳しくは最新の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください）>

- 当ファンドは、投資信託証券を通じて実質的に株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。また、円コースを除く各コースは、投資信託証券を通じて、実質的に為替取引を行うため、為替の変動による影響も受けます。したがって、投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。
- お申し込みの際には、販売会社からお渡しします最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 基準価額を変動させる要因として主に、■株価変動に伴うリスク ■為替リスク（円コースを除く） ■信用リスク ■流動性リスク があります。

ただし、上記はすべてのリスクを表したものではありません。

### （その他の留意点）

#### ■為替取引に関する留意点

主要投資対象の外国投資信託証券では、為替予約取引やそれに類似する取引であるNDF（直物為替先渡取引）等により為替取引が行われます。これらの取引において取引価格に反映される為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）／コスト（金利差相当分の費用）は、金利水準だけでなく当該通貨に対する市場参加者の期待や需給等の影響を受けるため、金利差から理論上期待される水準と大きく異なる場合があります。その結果、ファンドの投資成果は、実際の為替市場や、金利市場の動向から想定されるものから大きく乖離する場合があります。また、取引対象通貨によっては、為替管理規制や流動性等により為替取引ができなくなる場合や、金額が制限される場合があります。アジア3通貨コースでは、投資環境や資金動向および為替の変動等により、実質的な通貨配分が基本配分から大きく乖離する場合があります。

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。



### <ファンドの費用（詳しくは最新の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください）>

#### 投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料 購入価額に**3.78%(税抜3.5%)を上限**として販売会社毎に定めた率を乗じて得た額とします。  
※購入時手数料（スイッチングの際の購入時手数料を含みます。）については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。  
購入時手数料は、販売会社による商品・投資環境の説明および情報提供、ならびに販売の事務等の対価です。
- 信託財産留保額 ありません。

#### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬） 毎日、信託財産の純資産総額に**年率1.539%（税抜1.425%）**を乗じて得た額とします。運用管理費用（信託報酬）は、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。

#### <運用管理費用(信託報酬)の配分>

当該ファンドの運用管理費用(信託報酬)		
委託会社	年率0.70% (税抜)	ファンドの運用等の対価
販売会社	年率0.70% (税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
受託会社	年率0.025% (税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
投資対象とする投資信託証券	年率 0.18%程度*	投資対象とする投資信託証券の管理報酬等
実質的な負担	<b>年率1.719% (税込)程度</b>	—

※当ファンドが投資対象とする投資信託証券の管理報酬等には関係法人により下限金額が設定されているものがあります。

- その他の費用・手数料 財務諸表の監査に要する費用、有価証券売買時の売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用等は信託財産から支払われます。  
※監査報酬の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。監査報酬以外の費用等につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## <お申込みメモ (詳しくは最新の投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください)>

- 信託期間 [円コース、ブラジルリアルコース、豪ドルコース、アジア3通貨コース]  
2011年4月26日から2021年4月12日(約10年)  
[米ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース]  
2013年7月26日から2021年4月12日(約8年)
- 購入単位 販売会社がそれぞれ定めた単位とします。  
※お申込みの販売会社までお問い合わせください。
- 購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- 換金単位 販売会社がそれぞれ定めた単位とします。  
※お申込みの販売会社までお問い合わせください。
- 換金価額 換金申込受付日の翌営業日の基準価額
- 換金代金 換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
- 購入・換金申込  
受付不可日 ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日  
と同日の場合はお申込みできません。
- 決算日 毎月10日(該当日が休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 年12回の決算時に分配を行います。

## <投資信託に関する留意点>

- 投資信託をご購入の際は、最新の投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。  
投資信託説明書(交付目論見書)は販売会社の本支店等にご用意しております。
- 投資信託は、元本保証、利回り保証のいずれもありません。
- 投資した資産の価値が投資元本を割り込むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- 投資信託は預金、保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

- 円コース ■ブラジルリアルコース ■豪ドルコース ■アジア3通貨コース  
 ■米ドルコース ■メキシコペソコース ■トルコリラコース

### <委託会社およびその他の関係法人>

#### ■委託会社（ファンドの運用の指図を行う者）

大和住銀投信投資顧問株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第353号  
 加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

#### ■受託会社（ファンドの財産の保管及び管理を行う者）

三井住友信託銀行株式会社

#### ■販売会社

取扱販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第6号	○	○	
株式会社イオン銀行（※1）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○		
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第370号	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第6号	○		
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○
オーストラリア・アンド・ニュージーランド・バンキング・グループ・リミテッド（銀行）（※2）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第622号	○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長（金商）第3号	○		
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第65号	○		○
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第43号	○		
寿証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第7号	○		
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第8号	○		
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○	○	
第四証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第128号	○		
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第20号	○		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第121号	○		○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第32号	○		
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第24号	○		○
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○		
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第131号	○	○	
日の出証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第31号	○		
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第134号	○		
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第20号	○		
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第152号	○		
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長（金商）第24号	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第20号	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第181号	○	○	
明和證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第185号	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第199号	○		

※販売会社によっては、お取り扱いを行っていないコースがあります。詳しくは各販売会社にお問い合わせください。

(50音順)

※販売会社によっては、スイッチングのお取り扱いがない場合があります。詳しくは各販売会社にお問い合わせください。

(※1) インターネットのみのお取り扱いとなります。

(※2) 新規の募集の取り扱いおよび販売業務は現在行っていません。

11ページ目以降の「投資リスク」と「ファンドの費用」の内容について必ずご確認ください。